

2020 SUPER GT 第2戦 富士スピードウェイ

2020年8月8日(土)

予選

来場者:0人

天候:くもり時々晴

2020年のSUPER GTシリーズ開幕戦でポール to ウィンを飾ったTGR TEAM KeePer TOM'S 37号車は、開幕戦と同じ富士スピードウェイにおいて予選で苦戦を強いられる展開となってしまった。GT500クラス参加車の中で最大の42Kgのウエイトハンデを搭載していることはネガティブ要素であるのは確かだが、それ以外にもいまひとつうまく噛み合わない状況の中でQ1を突破することができず、10番手グリッドから決勝をスタートすることとなった。



- Q1を平川 亮が担当。
- 午前中の練習走行で分かったパフォーマンスの問題などを修正してアタックに臨んだ。
- タイヤのウォームアップを終えて、4周目に1分28秒台に突入、そして次周にタイムアップして1分28秒094まで詰めた。
- しかし、0.95秒の差でQ1突破はならず、ここで予選は終わりを告げてしまった。
- ニック・キャンディの予選走行チャンスは無かった。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	37	P10	1' 28.094		
ニック・キャンディ					

天候/路面	曇り/ドライ
気温/路面温度	28~27°C/39~35°C

平川 亮



「いろいろな要素はあると思うのですが、練習走行でハード面に問題があったので改善してもらって予選に臨みました。あまりネガティブなことは考えないでアタックしたつもりでしたが、結果としては問題が全て改善されていないことでタイムロスしているなという部分が明らかになり、Q2 へ進出できませんでした。決勝に向けては問題がないことを信じていますが、毎回うまく行くという事は無理で、それがレースだと思います。決勝レースで強いところをお見せして、目標は 6 位以内フィニッシュ。ポイントを得て、鈴鹿で燃料リストラクターを装着されてもがんばりたいと思います。その前に決勝での順位アップです。苦しい状況下でも決勝では自信があります。」

ニック・キャシディ



「朝の練習走行では、2 種類のタイヤをチェックした。マシンの調子は良かったし、ストレートスピードが遅いということ以外問題はなかった。ウエイトがいちばん重いということでストレートのスピードに影響が出るけれど、それにプラスしてパフォーマンスがあまり良くない。その問題がなければ、重くても Q2 に進出できていたと思う。10 番手スタートだけれど、決勝では絶対に順位を上げられる自信はある。タイヤの選択も間違いなし、セットアップは良いので、決勝前の 20 分間の走行で最終チェック。多分状況は良くなっているはずだ。」

小枝正樹 (エンジニア)



「練習走行でエンジンの調子が思わしくないというリポートがドライバーからあったのですが、それだけではなく、セットアップの部分でも今ひとつ合わせ込みが足りなかった部分もあり、Q1 を通過することができませんでした。ちょっとずつ足りない部分、噛み合わない部分があってこの結果になってしまいました。マシンのバランスは悪くないので、大きくセットアップを変更する必要はなかったのですが、コンポーネントとしてのバランスが良くないので、それを中心に改善しなくてはならないとなると、予選までに時間が足りず完全ではありませんでした。私が最後までもう一歩前に進めるセッティングを判断できなかったのが一番良くなかったです。しかし、対処はわかっているので決勝は良いレースができると思います。」

東條 力(チーフエンジニア)

「毎回パーフェクトな状態で臨むということは本当に難しいです。マシンバランスは悪くないが、エンジンが今ひとつ調子良くないとなったらそれに合わせるセッティングが必要になってくるのです。しかし、少ない時間の中ではできることが限られてしまいます。10番手で Q2 に進出はできませんでしたが、本当に僅差のタイムで戦っているのです。決定的な問題があるというわけではない状況です。決勝では常に順位アップしてきているので今回もそれを期待しています。表彰台に立つのは難しいと思いますが、必ずポイントゲットして終わってくれると思います。」



山田 淳 (監督)



「Q1 はなんとか通過できるだろうという予測でしたが、ドライバーからスピードが伸びないという報告があって、それが尾を引いてしまっている状況です。午前中の練習走行の最後には改善されるような気配はあったのですが、Q1 に亮がコースインしたら状況が悪くなっているようでした。現在 TCD さんにチェックしていただいているところです。開幕戦で優勝して 42Kg という最大ウエイトハンデを積んでいますから、それだけでも苦しいのに、そこに他の不安が重なってしまっています。その状況でも二人のドライバーのパフォーマンスは高いので、チームがそれを最大限にサポートして決勝は追い上げて、できるだけ多くのポイント獲得したいと思います。」

舘 信秀 (総監督)

「参加しているマシンの中で一番重いのが、10番手位が妥当な予選順位だと思っていたら、その通りになってしまった。でも、内容としては、トップスピードに少し問題があるとのこと。その問題がなかったなら、Q1 の突破も可能だったというので、チームとドライバーの意欲というかパフォーマンスは高いことが確認できた。決勝は、この位置からでも絶対に追い上げてくれることだろう。」



2020 SUPER GT 第2戦 富士スピードウェイ

2020年8月9日(日)

決勝

来場者:無観客

天候:曇り

10番手グリッドから66周300Kmの決勝レースをスタートしたTGR TEAM KeePer TOM'S 37号車は、多少の問題を抱えながらも序盤から積極的な展開で順位アップ。1周目に3ポジションをアップするという驚異的な走行を見せた。その後もオーバーテイクのチャンスを見逃すことなく上位を目指し、表彰台には一歩及ばなかったが、4位フィニッシュを果たし、ポイントランキングではチームメイトの36号車に1ポイント差の2位となっている。



- ニック・キャンディがスタートドライバーを担当。
- オープニングラップでなんと3台をパスして7位でホームストレートに帰ってきた。5周目にもう1台をパスして6位へ順位を上げた。
- キャンディは26周してピットイン、ドライバーを平川に交代。
- トップ争いをしていたNSXの8号車がスピンして後退、平川は5位へ。
- レースの中盤で5位を走行し、GT-Rの12号車をパスして4位に順位をアップした。
- そのまま順位をキープしてゴール、8ポイントを獲得、トータル29ポイントとなった。

Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
平川 亮	37	P4	1' 30.807
ニック・キャンディ			1' 30.061

天候/路面	曇り/ドライ
気温/路面温度	29~29°C/42~40°C

平川 亮



「TCDさんとチームがマシンの改善を試みてくれて、良くなっていたのですが完全というわけではなかったです。しかし、ニックが序盤で一気にポジションを上げてくれました。自分のステイントでは、これほどバックマーカに会うかと思うほど、何度も処理しなくてはならなかったです。これが SUPER GT ではあるのですが、苦労しました。12号車をパスできたのは、ラッキーな面もありました。GT-Rはコーナーが速いので300クラスのマシンがいるシチュエーションがなかったらパスできなかったでしょう。自分のマシンが重いということあまり考えずに、他のマシンと同じだから頑張らなければと自分にプレッシャーを与えながら走行していました。これからもコツコツとポイントをゲットしていきます。」

ニック・キャンディ

「1周目に3台を一気にパスできたのは気持ちよかった。その後は、ポジションをキープしながらチャンスが訪れた時にパッシングした。しかし、ストレートでは36号車と比較するとスピードが劣っていて本当にフラストレーションが溜まるレースだった。アクセルを全開に踏み込んでいるだけで後は何をすることもできないので、本当にフラストレーションを感じっぱなしだった。自分も、亮もそしてエンジニアもそしてチームも皆フラストレーションいっぱいのレースだった。しかし、その状況で4位は素晴らしい結果と判断している。鈴鹿でも苦しい展開が待っているだろう。NSXとGT-RはSupraよりダウンフォースがありそうだから速いのではないかな。しかし、ポイントゲットを目指して頑張るのみ。」



小枝正樹 (エンジニア)



す。」

「決勝前の20分間の走行で最終チェックを行って、変更したセットアップで良くなっていることは確認できました。しかし、100%良くなっているか?というところまでには至っていなかったということでした。土曜日の走り出しの悪い感覚を引きずってしまっていたかなという感があります。トータルパフォーマンスをもっとアップさせないといけません。それでも4位まで上がってこられて良かったです。次戦の鈴鹿は開発車両データをみて、37号車の現状と照らし合わせてセットアップを考えて、できるだけ多くのポイントゲットを目指しま

東條 力(チーフエンジニア)

「ニックのパッシングは本当にすごいですね。そして、亮の安定した走行も素晴らしい。いろいろと改善を試みたのですが、完璧な状況で決勝をスタートさせてあげられなかったのは申し訳ないです。エンジンに関して、ストレートで数キロの差、馬力に関しては正確な数値はわからないのですが、その僅かな差がスピードに現れてしまって、37号車にとって楽なレースではなかったのですが、ちゃんと順位をアップしてくれました。これはドライバーの力ですね。4位という結果は、36号車と同じようにとても価値あると思います。」



山田 淳 (監督)



「今回はハードウェアの不具合から始まっているいろいろありましたが、終わってみれば4位という素晴らしい成績でした。スタート直後、ニックがまたしても驚異的な3台抜きを披露してくれたのには本当に驚きました。そして、代った亮も安定したペースで後半を走行してくれて、抜けるチャンスは逃さず順位アップ。現在のこの二人のコンビネーションは最高だと思います。練習走行や予選での不調が完全には改善されていなかった状況で得られた最高の結果です。次戦もできるだけ多くのポイントを獲得できるレースを展開し

たいと思います。」

館 信秀 (総監督)

「さすがだ。やはりチャンピオン経験チームの底力はすごい。ポイント圏内でフィニッシュしてくれれば万々歳と思っていたから4位とは嬉しい限り。ニックと亮の組み合わせは、今やスーパーGTで最高のコンビネーションだと思う。これからは、苦しい戦いが続く。コツコツとポイントを少しずつ足して、再び最後にドカーンッと勝ってくれば、チャンピオンだ。まあ、そううまく行かないのだけれど、そうなってほしいという気持ちをもって毎戦臨めば、現実となるのではないかな。」

